



写真提供・所蔵 浦添市美術館



沖縄復帰50周年

第32回

北前船寄港地

フォーラム

2023 **2/2** ^木
 ——— **2/4** ^土

沖 in 縄
 Okinawa

北前船、
 新たな船出へ

～万国津梁の地、
 沖縄からアジア、
 そして世界へ～



昆布ロード略図

万国津梁

ご挨拶



沖縄復帰50周年

北前船寄港地フォーラムin Okinawa
実行委員会会長

沖縄県知事

玉城 デニー

沖縄県で初の開催となる第32回北前船寄港地フォーラムin Okinawaに全国各地からお集まりいただいた皆様を、県民を代表し心より歓迎申し上げます。

沖縄県は、琉球王国時代、万国津梁（世界の懸け橋）としてアジア諸国との交易・交流を通じた繁栄の歴史を有しております。

沖縄は北前船の直接の寄港地ではありませんが、江戸時代後期、北海道で採れた昆布が北前船で下関等へ運ばれた後、薩摩から琉球を経て中国へ輸出された歴史があり、その航跡は“昆布ロード”と呼ばれておりました。

この度、琉球とアジア諸国との交流・交易の歴史を振り返る契機として、復帰50周年記念事業に位置付け、本フォーラムを沖縄県で開催する運びとなりました。一般社団法人北前船交流拡大機構をはじめ、開催に向け御尽力頂いた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

琉球の人々は、中国をはじめ東南アジア諸国との交流を通じて磨き上げられた、様々な文化の混じり合った独自の文化（チャンプルー文化）を築きました。参加される皆様には、琉球王国時代の交易の歴史や、沖縄の特色ある伝統工芸、食文化等に関する基調講演やトークセッション等を通じて、沖縄の多彩な地域資源の魅力に触れていただければ幸いです。

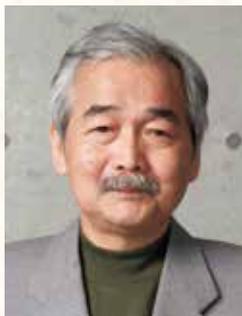
祖国復帰から50年、新時代を迎えた沖縄において本フォーラムを開催することは誠に意義深いものであり、ぜひ全国各地から沖縄に集い、相互交流を深めるとともに、未来に繋がる新たな地域間交流の礎を築いていただければと考えております。

結びに、本フォーラムの開催に際し、御尽力頂いた一般社団法人北前船交流拡大機構の皆様をはじめ、関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、皆様の御健勝を祈念申し上げ、歓迎の挨拶のことばといたします。



一般社団法人北前船交流拡大機構 最高顧問
大橋 洋治

「第32回北前船寄港地フォーラム in Okinawa」の開催、誠にありがとうございます。東アジアの中間に位置し、日本と中国、アジアの文化が融合し、「チャンブルー文化」と言われる独自の琉球文化を生んだ沖縄。北前船が運んだ昆布は、日本列島を縦断して、沖縄にたどり着き、独自の食文化を発展させたと聞きます。沖縄本土復帰50周年の節目にあたり、北前船でつながった仲間がここ沖縄に集えることを喜びに思います。



一般社団法人北前船交流拡大機構 評議員議長
石川 好

今回の沖縄開催は、これまで開催されたフォーラムの中でも大きな意味を持っている。北前船といえば昆布だが、つい直近まで日本で最も昆布を食していた県は沖縄県であった。北海道の昆布がなぜ遠く離れた沖縄で食されたのか。これには幕末期、薩摩藩が長崎の沖合で密貿易による昆布を沖縄に運び、それを外交関係のあった福建省に運び、薩摩藩が巨大な利益を上げていたからである。薩摩藩が当時の日本で最高レベルの軍事力を持ち得たのは、この沖縄を経由した密貿易によるものであった。



一般社団法人北前船交流拡大機構 会長
岩村 敬

北前船寄港地フォーラムは、今から15年前山形県酒田市で産声を上げました、爾来、全国の北前船寄港地でフォーラムが開催されてきました。近年では寄港地ではありませんが、北海道(蝦夷地)から北前船がもたらした昆布(出汁)につながるのある都市でも開催されています。今回開催される那覇市も北前船がもたらした昆布の文化が息づく都市です。北前船と沖縄そして中国(清)との接点がフォーラムで語られます。北前船は、日本海・瀬戸内海沿岸の各都市の文化だけではなく、広く世界の都市のそれをつなぐ役割を果たしたといっても過言ではありません。



一般社団法人北前船交流拡大機構 理事長
浜田 健一郎

まずは本フォーラムの開催にあたり大変ご苦勞を頂いた実行委員会の皆様に心より御礼申し上げます。琉球は長い歴史の中でアジア諸国と交流し、独自の食、芸能等を育てて来ました。そして、その文化は江戸時代には北前船によりもたらされた昆布と共に琉球から中国、アジアへと広がっていきました。ここ沖縄県で開催される北前船フォーラムが地域間の交流を更に活発化し、各地方都市の活性化に資すると共に、その交流がアジア、そして世界まで広がる意義深いものとなって行くことを祈念いたします。



北前船日本遺産推進協議会 会長／石川県加賀市長
宮元 陸

第32回北前船寄港地フォーラムin Okinawaの盛大なる開催をお祝い申し上げます。各地域において、北前船が残した多くの文化遺産を活かし、地域の活性化や地域間交流につなげていく取組みが行われている中、同フォーラムが本州を離れ沖縄県で開催されることは、北前船コリドール構想のさらなる発展につながるものであり、大変喜ばしいこととあります。今回の開催を機に、沖縄県をはじめ、関係する都市の友好と交流がさらに深まりますことを祈念いたします。



北前船寄港地フォーラムとは

一般社団法人北前船交流拡大機構について

北前船寄港地フォーラムは、一般社団法人北前船交流拡大機構の評議員議長でもある石川好氏の「北前船コリドール構想(※)」に賛同した多くの自治体・企業などの支援により、2007年から日本全国で開催しているフォーラムです。

日本海側の寄港地連携、地域間交流による活性化を図る観光フォーラムとして実施され、民間レベルで開催される国内最大級のフォーラムとして認められています。

また、2018年5月25日から27日にかけて、中国・大連にて初の海外でのフォーラムが開催されています。

2017年8月9日には、同フォーラムを母体として、東日本旅客鉄道・西日本旅客鉄道・北海道旅客鉄道・日本航空・ANA総合研究所などが中心となり、一般社団法人北前船交流拡大機構が立ち上げられました。

同機構は、鉄道・航空を中心とした関連企業が地域活性化の分野で力を合わせることで、今まで以上に地域の発展に貢献するとともに、「地域間交流拡大」をより強力に推し進め、地域活性化や国内外からのインバウンド旅客の誘客拡大を目指しております。

※ 北前船コリドール構想

「北前船」は江戸時代から明治20～30年代まで北海道・東北・北陸・関西・九州を結ぶ重要な物流のネットワークとしての機能を果たしており、100年ほど前には日本海側に立派な経済圏が存在していました。

コリドールとは人と物が行き交う通路・大通り・回廊を意味し、かつて日本海側が栄えた「北前船寄港地」ルートを点から面へ、回廊として発展させようとするものです。

フォーラム開催状況

- 2022年10月 第31回 北前船寄港地フォーラムin パリ
テーマ：日本の食文化を世界に
- 2022年 3月 第30回 北前船寄港地フォーラムin 秋田
テーマ：北前船で旅した秋田蘭画つなげる・つながる世界と未来
- 2020年 2月 第29回 北前船寄港地フォーラムin 鹿児島
テーマ：明治維新の力・北前船で広がる交流の輪～令和の新たな輪は海を越えて～
- 2019年10月 第28回 北前船寄港地フォーラムin 北海道 小樽・白付
テーマ：北前船往来～日本の繁栄と近代化を支えた絆をふたたび
- 2019年 9月 第27回 北前船寄港地フォーラムin 庄内・山形
テーマ：北前船が紡ぐ、新たな日中地方都市間交流

北前船、新たな船出へ ～万国津梁の地、沖縄からアジア、そして世界へ～

万国津梁

第32回北前船寄港地フォーラムが開催される沖縄県は、北前船の直接の寄港地ではありませんが、北海道で採れた昆布は北前船により下関等を経由し当時の琉球王国へと運ばれ、交易品として中国へ輸出された歴史があることから、交易の歴史においては深い繋がりがあり、昆布が辿った航跡は“昆布ロード”と呼ばれています。

琉球王国時代に当時の人々は日本や中国、遠くは東南アジアとの交易を行い、各国との交流により様々な文化の混じり合った独自の文化（通称：チャンブルー文化）を築きました。

琉球王国時代から変わって現在、沖縄県ではアジアに近い地理的特性を活かし、日本におけるアジアへの玄関口としての役割を担うべく、国際航空路線の拡充等に努め、2018年には入域観光客数が初めて1千万人を超えました。

しかしながら、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルスにより、沖縄県だけではなく全国の観光関連産業等が大きな影響を受けました。

このような状況において、2022年、沖縄は本土復帰して50年という大きな節目の年

を迎え、本フォーラムは沖縄県の復帰50周年記念事業に位置づけて開催します。この記念すべき節目に沖縄で開催される本フォーラムでは、北前船が繋いだ昆布や昆布ロードを含め、琉球王国とアジア諸国との交易・交流の歴史等の古に想いを馳せながら、全国の観光関連産業等の活性化に向けて取り組んでいくとともに、地域資源の魅力を高め、世界へ発展させることを目指す。そのような願いが込められております。



那覇市歴史博物館提供

万国津梁とは

中国との朝貢貿易により、アジア各地を結ぶ中継貿易で繁栄した琉球王国は、自らを「万国之津梁（ばんこくのしんりょう）」=世界の架け橋と称した。



※琉球交易港図屏風 六曲一隻/写真提供・所蔵 浦添市美術館

『琉球交易港図屏風』

中国から帰国した進貢船をはじめ、唐船（とうせん）や競う爬龍（はーりー）船などで賑わう那覇港内外等、多くの人が行き交う街並みが描かれている。画面右奥には首里城も見える。

フォーラムプログラム

2023年2月2日(木)

ロワジールホテル那覇 3階「天妃」

項目	プログラム・内容	時間
一般社団法人地域連携研究所	企業会員制度発足式(一般社団法人地域連携研究所 主催)	13:30~16:30
歓迎交流前夜祭 ※会費制	<ul style="list-style-type: none"> ・開会挨拶 [北前船交流拡大機構関係者] ・主催者挨拶 [実行委員会会長 沖縄県知事 / 玉城デニー] ・来賓祝辞 ・参加自治体等の紹介 / 実行委員会委員紹介 ・乾杯 ・アトラクション / 演出:富田めぐみ [沖縄芸能(八重瀬歌舞団 / KUGANI)] ・閉会 	18:30~20:30

※上記時間は予定です。変更となる場合があります。

2023年2月3日(金)

ロワジールホテル那覇 3階「天妃」

項目	プログラム・内容	時間	
フォーラム第一部	オープニング デモンストレーション	・空手演武 / 上地流範士十段 新城 清秀 氏	10:00~10:10
	開会式	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 [実行委員会会長 沖縄県知事 / 玉城デニー] ・来賓祝辞 等 	10:10~11:10
	トークセッションⅠ [テーマ:沖縄のソフトパワー]	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県知事 / 玉城 デニー 氏 ・舞台演出家 / 富田 めぐみ 氏 コーディネーター……内閣府沖縄総合事務局 運輸部長 / 星 明彦 氏 <p>～ 休憩 (昼食) ～</p>	11:15~12:00
フォーラム第二部	基調講演 沖縄を起点とした世界・ 日本各地との交易・文化交流	・琉球歴史家 / 上里 隆史 氏	13:00~13:45
	トークセッションⅡ [これからの沖縄、交流の中で育まれた 地域資源の世界的価値と その未来:食を例に]	<ul style="list-style-type: none"> ・奥井海生堂代表取締役 / 奥井 隆 氏 ・松本料理学院学院長 / 松本 嘉代子 氏 ・マザーズキッチンにじ代表 / 玉城 良子 氏 コーディネーター……琉球大学 国際地域創造学部 観光科学研究科教授 / 荒川 雅志 氏 	14:00~14:45
	トークセッションⅢ [これからの沖縄、交流の中で育まれた 地域資源の世界的価値と その未来:工芸を例に]	<ul style="list-style-type: none"> ・喜如嘉の芭蕉布保存会会長 / 平良 美恵子 氏 ・(公財)大原美術館理事長 / 大原 あかね 氏 ・岡山県倉敷市長 / 伊東 香織 氏 ・陶芸家 / 平井 智 氏 コーディネーター……内閣府沖縄総合事務局 運輸部長 / 星 明彦 氏 	14:50~15:50
	スピーチ [地域資源を活かした各地域・世界との 観光と交流振興について]	<ul style="list-style-type: none"> ①日本トランスオーシャン航空株式会社 代表取締役社長執行役員 / 野口 望 氏 ②沖縄ツーリスト株式会社 代表取締役会長 / 東 良和 氏 ③全日本空輸株式会社 取締役執行役員 / 矢澤 潤子 氏 	16:00~16:45
	総括(閉会あいさつ)	北前船交流拡大機構関係者	16:45~17:00
※会場転換となりますので、一旦会場より退出いただきます。			
レセプション ※会費制	<ul style="list-style-type: none"> ①オープニングアトラクション [かぎやで風(沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻学生有志)] ②開会挨拶 [北前船交流拡大機構関係者] ③主催者挨拶 [実行委員会会長 沖縄県知事 / 玉城デニー] ④来賓祝辞 ⑤乾杯 ⑥アトラクション / 演出:平田大一 [現代版組踊 肝高の阿麻和利] ⑦今後の開催地挨拶 [岡山県、北海道] ⑧閉会 	18:30~20:30	

※上記時間は予定です。変更となる場合があります。

基調講演



内閣府地域活性化伝道師
法政大学沖縄文化研究所
国内研究員

上里 隆史

1976年生まれ。琉球歴史家。浦添市立図書館長を経て現在、内閣府地域活性化伝道師。沖縄県「万国津梁会議（琉球文化ルネサンス）」副委員長。著書に『尚氏と首里城』、『マンガ沖縄・琉球の歴史』、『琉球という国があった』ほか多数。NHK「テンベスト」時代考証、「プラタモリ」案内人などもつとめる。

コーディネーター



内閣府沖縄総合事務局運輸部長
沖縄観光総合施策推進室長
(兼) 観光庁 観光政策調整官

星 明彦

沖縄の精神文化、食、伝統文化等を高く評価しており、沖縄県と連携して「命」や「精神性」を沖縄の価値としたウェルネスツーリズム等の仕組づくりに係る検討を推進。



琉球大学
国際地域創造学部
観光科学研究科教授

荒川雅志

世界5大長寿地域に沖縄が位置づけられることを紹介した全米ベストセラー『THE BLUE ZONE(ブルーゾーン) 世界の100歳人に学ぶ健康と長寿9つのルール』フルバージョン版の日本初翻訳・監修者。

トークセッション



沖縄県知事

玉城 デニー

上智社会福祉専門学校卒業後、中部地区老人福祉センター職員やラジオパーソナリティーを経て、2002年より沖縄市議会議員(1期)、2009年より衆議院議員(4期)を務める。2018年10月の沖縄県知事選挙にて当選、2022年9月の同選挙にて再選。座右の銘「天は正論に信念と勇気を与える」。



舞台演出家
琉球芸能大使館代表

富田 めぐみ

沖縄県内の地域祭祀を司るノロの家に生まれる。琉球芸能を軸に実演家や多分野のアーティストと創作する作品は、日本代表作品としてアジア・ヨーロッパ・アフリカ等の国際演劇祭や、シドニーオペラハウス等の劇場より公式招待を受ける。舞台を通して沖縄と世界を繋ぐ活動のため、琉球芸能大使館を設立し代表を務める。琉球文化への敬愛を基に、国籍や世を問わず親しまれる作品創りに定評がある。



奥井海生堂代表取締役

奥井 隆

北前船交易で栄える、越前敦賀湊で明治4年創業、大本山永平寺総持寺御用達の御昆司四代目主人。代々名だたる高級料亭のお取引をいただき、当主人の代より海外のミシュラン星付きレストランとの取引が始まる。近年パリやニューヨークでの和食文化や昆布についての講演会にて講師として招聘される。



琉球料理研究家
松本料理学院学院長

松本 嘉代子

昭和44年、松本料理学院を開校。その後、厚生大臣表彰(栄養指導業務)や沖縄県文化功労賞等を受賞。現在、琉球新報、沖縄タイムス料理講習会レギュラー講師。(一社)琉球料理保存会副理事長。



元月桃庵オーナー
マザーズキッチンにじ代表

玉城 良子

恩納村にて1日一組限定の沖縄料理を提供するレストランを経営。家庭で親から教わった食と愛情、地域の食材等について発信。



喜如嘉の芭蕉布保存会会長

平良美恵子

国の重要無形文化財「芭蕉布」保持者(人間国宝)であった故平良敏子氏の義娘で、芭蕉布の振興に携わる。



(公財)大原美術館理事長
(公財)倉敷民芸館理事
倉敷紡績創業家第10代当主

大原あかね

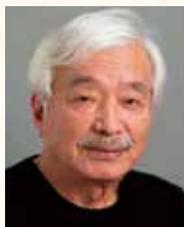
1967年9月生まれ。一橋大学経済学部卒業。青山学院大学大学院国際政治経済学研究所修了。2016年7月、5代目の大原美術館理事長に就任。倉敷商工会議所副会頭。倉敷市在住。



岡山県倉敷市長

伊東香織

1990年東大法学部卒。郵政省(現総務省)入省。1993年米ハーバード大ロースクール修士課程修了。2008年倉敷市長就任～4期目。岡山県市長会長、全国市長会副会長。北前船寄港地である下津井と玉島が日本遺産に認定。



陶芸家

平井 智

大阪教育大学美術学科卒業後、ニーノカルソ氏アトリエ助手(ローマ)建築陶芸や国立ファエンツァ陶芸学校に学ぶ。1981年からファエンツァにアトリエを持ち、制作活動に入る。「新しい陶芸」グループとしてイタリア各地で展開し日本でも開催。ファエンツァ国際陶芸コンペで受賞するなど受賞多数。2022年には、長年の陶芸を通じての日伊文化交流への貢献に対して外務大臣表彰を受ける。

アトラクション出演者



上地流空手道拳優会
会長(範士十段)

新城 清秀

1960年より上地流空手道嘉手納修武館の新城清優(父)に師事。上地流空手道協会(二代目宗家上地完英)主催の選手権大会で9年連続、形・組手で総合優勝。上地流空手道協会海外指導員として全米20州で指導する他、フランス・ドイツ等で開催された世界武芸祭等にも参加。2000年のG8九州・沖縄サミットでは、各国首脳前で特別演武(首里城内)を行う。現在、沖縄尚学学園で空手の非常勤講師を務める他、沖縄県警察学校の空手教師として、幅広く上地流の指導を行っている。



公立大学法人沖縄県立芸術大学
琉球芸能専攻学生有志

沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻で琉球芸能の実演と理論を学ぶ学生有志。卒業後は、ほとんどの学生が国立劇場おきなわをはじめ、県内外での琉球芸能公演活動はもとより、後継者育成に励み、沖縄の伝統文化継承に関わる。また、古典音楽や古典舞踊を軸に、幅広い琉球芸能の資質向上を図りつつ、舞台活動を通して、地域との交流親睦を行っている。



八重瀬歌舞団

平成13年に結成。八重瀬町内の芸能実演家集団。琉球舞踊、琉球音楽、地域の民俗芸能と幅広い芸能を展開。2016年からは八重瀬町をPRする観光プロモーション芸能

団としても活躍中。2018年4月には、歌舞団メンバーを中心に沖縄伝統獅子舞芸能団として、ベトナムフェ市より招聘され、民俗芸能交流事業へ参加。郷土の芸能は、人々の心を癒す芸能として継承され、若い世代が舞台を通して、郷土への想いを共感し、豊かな社会を目指して取り組んでいる。初代団長の屋嘉比清の創作曲を主体に、地元八重瀬町にゆかりのある地名や、沖縄の言葉を使用した歌舞劇などを演目として構成し舞台を展開中。島の生活のかおり漂う舞台が特徴的な舞台活動を行う中で、地域社会への貢献活動としての文化芸術活用を目指す。



KUGANI

母体となる玉城流玉扇会は、沖縄で最も歴史ある琉球舞踊団体のひとつで、近代琉球芸能の祖と呼ばれる玉城盛重、甥の初代・玉城盛義の技芸継承者として、琉球芸能の普及・発展に尽力している。活動の幅を広げるため法人登記し誕生したのがKUGANIである。沖縄県内各地での公演をはじめ、県外・海外での公演や、観光客向けの公演、学校でのワークショップ・レクチャーなど、琉球芸能の魅力をもっとの人に伝えるための活動を積極的に行っている。

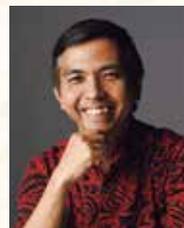


現代版組踊 肝高の 阿麻和利

1999年、当時の勝連町教育委員会が、子ども達の感動体験と居場所づくり、ふるさと再発見・子どもと大人が参画する地域おこしを目的に企画したのが始まり。沖縄の正史

で反逆者として伝えられる勝連城主「阿麻和利」の生き様を、多くの伝承や歴史研究をベースに脚本化。郷土が誇る英雄として復活させた物語が、現代版組踊「肝高の阿麻和利」。活動は今年で24年目を迎える。2000年3月の初演以来、公演回数通算346回、延べ20万人の観客を動員。

演じるのは、うるま市の中学・高校生徒。ダイナミックな進化を遂げていく中学生のひたむきな演技、本格琉球史劇の醍醐味、躍動感あふれる感動の舞台。



演出家、南島詩人
平田 大一

大学在学中から、南島詩人として独自の舞台活動を展開。2000年初演、今もロングランを続ける「現代版組踊 肝高の阿麻和利」を手掛けたことで演出家として注目を集める。2017年6月、フリーランスの「沖縄文化芸術振興アドバイザー」として世界と沖縄をつなぐ活動を展開、世界中で踊られている話題の応援歌「ダイナミック琉球」や創作エイサーの定番曲「ミルクムナリ」の作詞者としても知られる。現在「内閣府沖縄振興審議会(5期目)」に在籍する一方で「くるもの杜100年プロジェクト」「現代版組踊シリーズ」を牽引するだけでなく、県内外の文化行政の施策に関するプロデューサーやアドバイザー業務等、文化に軸足をおいた新たな地域活性化のモデルづくりのトップランナーとして更なる挑戦を続ける。

空手発祥の地 沖縄



■沖縄で生まれた空手の歴史

空手発祥の起源についてはさまざまな説がありますが、琉球王国の士族が教養として学んだ護身術がそのルーツであるとされています。琉球王国時代に完成した空手は松村宗棍、東恩納寛量、松茂良興作などの努力により一層の発展を遂げます。さらに廃藩置県(1879年)後、糸洲安恒などの努力により広く学校教育や一般にも普及するようになりました。

沖縄県空手振興課

https://www.pref.okinawa.jp/site/bunka-sports/karate/karate_kobudou.html



黒糖と昆布ロード

江戸時代から明治時代まで、北前船によって
交易が行われてきた沖縄黒糖と富山昆布。

2022年10月に沖縄黒糖協同組合と北陸昆布協会が包括協定を締結！

現在、沖縄黒糖や富山の昆布といったローカル食材は、地産地消または大都市への流通がメインとなっていますが、「それぞれの文化や歴史のある土地間でつながり、各地域で消費を促していくローカルトレードを推進する」という考えの下、沖縄黒糖協同組合と北陸昆布協会は、県の垣根を越えて包括協定を締結しました。

今回の包括協定は、2022年8月に行われた沖縄を拠点にするサッカークラブ「沖縄SV」と「カタレ富山」が行った沖縄黒糖、富山の昆布等のローカル食材の贈り合いの取組がきっかけとなり、締結されました。

今後は、富山県内のレストランにて沖縄黒糖と昆布を使ったランチコースの提供や、沖縄県と富山県のこども食堂へ沖縄黒糖と昆布を使ったレシピの提供等が予定されています。

これらの取組により、両県の交流活性化のほか沖縄黒糖と富山昆布の高付加価値化等が期待されます。



沖縄黒糖 × 富山昆布

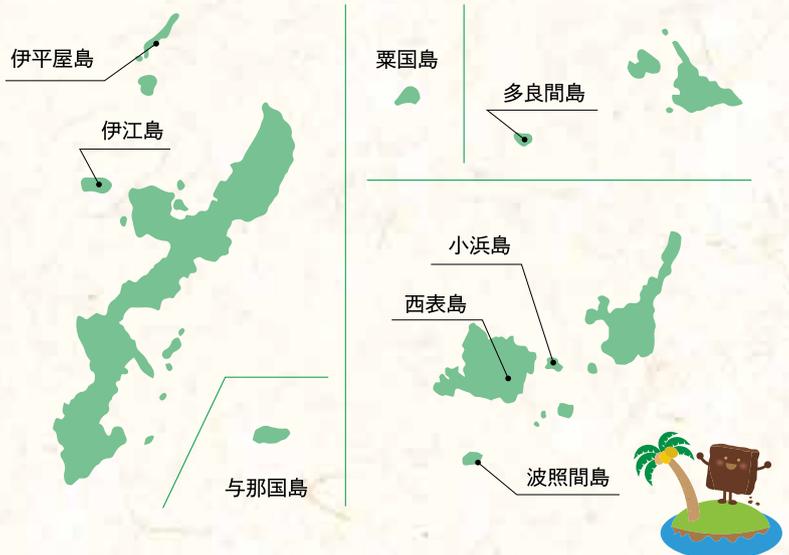
〈メニュー例〉
大門素麺 / 昆布
昆布のゼッポリーニ
【沖縄黒糖・波照間】 / 【四十物昆布・上黒とろろ】

八つの島の 八つの黒糖



■沖縄黒糖について

沖縄黒糖は、限定された製糖工場（8つの離島工場）で生産される含みつ糖の代表的なもので、さとうきびの搾り汁をそのまま煮沸濃縮し、加工しないで冷却して製造しています。糖分の他にカリウム、カルシウム、鉄等多くのミネラル成分を豊富に含み、特有の香りが特徴です。沖縄の伝統的な家庭料理から、昨今ではスイーツや飲料などに幅広く使用されています。



沖縄県黒糖協同組合
<https://www.okinawa-kurozatou.or.jp>



開催地「沖縄」の立地と魅力



沖縄県は、九州から台湾に連なる南西諸島の南半分、およそ北緯24度から28度、東経122度から132度に位置しており、距離にして東西約1,000km、南北約400kmに及び広大な海域に散在する琉球諸島の島々から成っています。

琉球諸島には、沖縄諸島、先島諸島、尖閣諸島、大東諸島の大小160の島々(0.01km²以上)があり、そのうち有人島は47^{注1}となっており、平成25年4月に中核市に移行した那覇市をはじめ41の市町村があります。

沖縄は、東アジアの中心に位置する地理的優位性を活かし、アジア経済と連動することでその活力を取り込むビジネス拠点として注目されています。

沖縄県では、日本とアジアを結ぶ国際ビジネス都市として沖縄を発展させるため、空と海の玄関口である那覇空港と那覇港を基軸とした、アジア展開に優れた国際物流ネットワーク構築に取り組んでいます。

(注)1: 平成27年国勢調査により人口が確認されている島に、令和2年1月1日現在の住民基本台帳人口も勘案している。有人島には、沖縄本島と架橋等で連結された島(大宜味村宮城島、名護市屋我地島、本部町瀬底島、今帰仁村古宇利島、うるま市伊計島、宮城島、平安座島、浜比嘉島、今帰仁村古宇利島、うるま市伊計島、宮城島、平安座島、浜比嘉島、南城市奥武島)を含む。

沖縄本島

- 北部エリア
- 中部エリア
- 南部エリア

周辺離島

- 座間味島
- 阿嘉島
- 慶留間島
- 渡嘉敷島
- 粟国島
- 渡名喜島
- 久米島

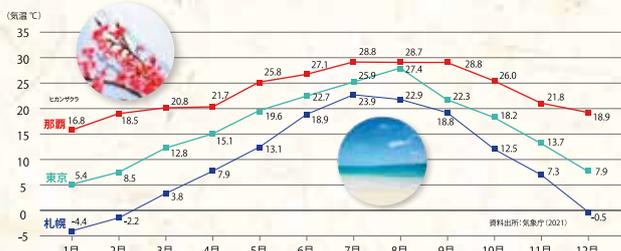


平均気温

沖縄では通常、1月には日本一早く桜が開花し、3月になると県内各地で海開きが行われ、マリレジャーのオンシーズンを迎えます。また、冬季でも緑が豊かに茂り、1年を通してゴルフが楽しめます。



気象庁/過去の気象データ



県章

このマークは3つの丸からなっています。いちばん外側の赤い丸は、海を表し、中にある白い丸はローマ字の「O」と人の輪を表しています。いちばん内側の赤い丸は、沖縄県の発展性を表しています。



県花(デイゴ)

3月~5月にかけて沖縄を深紅に染めるのがデイゴの花です。幹は琉球漆器の材料になります。

■伸びゆく入域観光客数

コロナ禍により令和2～3年は大幅に入域観光客数が減少するもリーディング産業である観光産業においては、令和元年の入域観光客数が暦年で初めて1千万人を越え、ハワイの観光客数に迫る数値となっています。また、同年の外国人観光客数も過去最高値を記録しています。

入域観光客数(令和元年)	10,163,900人
うち外国人観光客数	2,930,000人
観光収入(令和元年)	7,340億800万円

出所:沖縄県文化観光スポーツ部 ※ハワイの観光客数/10,424,995人

入域観光客数の推移(H23～R3)



SIGHTSEEING
観光
沖縄が誇る
自然、世界遺産
そして伝統芸能

やんばる国立公園 画像提供:(C) K.P.V.B / (C) OCVB



沖縄コンベンションビューロー
<https://www.ocvb.or.jp>



FOODS

料理

琉球料理は日本遺産

2019年「琉球料理」は、「泡盛」「芸能」と共に日本遺産に登録されました。

琉球王朝時代に中国の冊封使や薩摩の在番奉行等を饗応するための料理が生まれ、調理技術や作法等を洗練させて宮廷料理として確立しました。

それが上流階級に伝わり、明治以降は一般家庭にも広がってさらに発展しました。

また、亜熱帯・島嶼の自然環境のもとで育まれてきた庶民料理があり、その双方を源流として現在に受け継がれ、沖縄で発展・継承されてきた伝統的な料理が琉球料理です。

トウダーブン
(東道盆)

東道盆は、琉球漆器の代表的な器です。「東道」とは中国の史書による「東道の主」に由来し、主人となって客の世話をすることを意味するとされています。形状は四角(五品)、六角(七品)、八角(九品)、円形などがあり、中に盛り込んだ小皿には色や形が美しく、冷めても味が変わらない上質な酒の肴を客の数に合わせた数で盛り込みます。

沖縄の昆布料理とは

沖縄で昆布は長寿食の一つとされており、方言で「クーブ」と呼ばれています。

琉球料理では、亜熱帯の風土に根差した野菜、魚介類をはじめ豆腐、豚肉を多く用いるとともに、外来である昆布も巧みに取り入れ独自のスタイルで定着しています。

特に沖縄では「長昆布」が好まれ、「出汁」として使用するだけでなく、食材として他の食材と組み合わせて調理する等、家庭でも昆布がよく食べられています。

沖縄の
代表的な
昆布料理クーブイリチー
(昆布の炒め煮)

昆布の炒め物です。千切りの大根とラフテー(豚肉の皮付き三枚肉)を纏だして煮たものと、刻み昆布を合わせて炒めた料理。酒・醤油・みりんで味付けをし煮詰めます。

クーブマチ
(昆布巻き)

地元の魚を昆布を巻いて、昆布の戻し汁・みりん・醤油で煮ます。



ソーキ汁

豚の骨付きアバラ肉入りのソーキ汁には、結び昆布が欠かせません。



泡盛

泡盛は米で造った焼酎の一種で、黒麹菌を用いた沖縄独特の酒です。名前の由来は酒精度をみるために泡を盛る方法からついたとする説があります。

泡盛は、その味わいと香りがラオロンというタイの酒に似ていることから、15世紀にタイから伝わったとされていますが、近年、それに加えて中国福建省をつなぐルートなど複数が考えられています。

琉球王朝時代、泡盛は冊封使の饗応や江戸幕府への献上品として、外交には欠かせない貴重な品でした。また泡盛は、酒として味わうほか、ラフテーなどの独特の風味を出す調味料としても使われています。

沖縄の伝統的な食文化
<https://ryukyurouri.com/food-culture/>



CRAFTS

工芸

工芸の島、沖縄

自然と風土が生んだ精神性を持つ
沖縄の工芸品たち。

沖縄は14~16世紀頃、日本本土・中国さらに東アジア諸国との交易を通じて独特な伝統文化を形成してきました。

そのなかで沖縄の工芸は、諸外国の様々な良い面を取り入れ、多彩なところが特徴であり、琉球王朝時代から今日に至るまで、県内各地で受け継がれ発展しています。

沖縄県においては国指定の伝統的工芸品が16品目あり、全国第3位の品目数となっています。(平成30年11月7日現在)



喜如嘉の 芭蕉布

起源は13世紀頃、糸芭蕉の原皮からとれる糸を手で積み、緋糸を手くりし、琉球藍、車輪梅等の植物染料で染め、織りあげます。

沖縄固有の織物で、軽くてさらりとした風合いが古くから人々に愛されています。



読谷山花織

起源は15世紀頃で、琉球王府の御用布。生糸、綿糸を素材に幾何学模様を糸で浮かせ、それに緋や縞・格子をあしらった南国的な織物です。



久米島紬

沖縄最古の紬織物。草木染め、泥染、きぬた打ち等の古来からの技術を守って生産され、丈夫さ、着心地の良さで高く評価されています。



琉球びんがた

綿布、絹布、芭蕉布等に顔料及び植物染料を用いて手染めする色鮮やかな紅型と、琉球藍の浸染による藍型があり、華麗な魅力を有しています。



宮古上布

糸は細かく、緋模様は精緻で、藍染め、手績み糸、手織り等、昔ながらの手法で作られ、夏物着尺を代表する高級紺上布として珍重されています。

八重山ミンサー

主に南国的な明るさを持つ帯、ネクタイや袋物を生産。五つの緋と四つの緋が交互に配され、「いつの世までも未永く」という意です。



琉球漆器

木地はデイゴ、エゴノキ等で、上塗りには天然漆を用いた塗り立てで、特に朱の鮮やかさは他に例をみません。



壺屋焼

荒焼と上焼に大別され、前者には、無釉の比較的大きな製品があり、後者には釉薬を施し沖縄独特の絵付模様の製品が多くみられます。



三線

琉球独自の発展を遂げた楽器。棹には黒壇等の堅い木材を、胴にはニシキヘビの皮等を張っています。制作には高度な技術が求められます。



琉球ガラス

戦後は駐留米軍のお土産品から出発し、現在では飲食器や花瓶等の日用品が手作りのガラス工芸として高く評価されています。

沖縄県商工労働部ものづくり振興課 工芸の島沖縄パンフレット

<https://www.pref.okinawa.jp/site/shoko/shoko/>



エクスカーションのご案内

※最少催行人員：各コース15名(最少催行人員に満たない場合はコースの変更等)
 ※添乗員は同行、バスガイドのご案内いたします。
 ※コースの内容は変更になる場合があります。

01

沖縄の伝統文化

09:00



ロワジールホテル那覇

県庁前広場08:45発→ロワジールホテル那覇09:00発→①おきなわ工芸の杜 ②沖縄空手会館 ③泡盛酒造所 ④首里天楼別邸(昼食)→那覇空港13:30頃着予定



おきなわ工芸の杜

沖縄は14～16世紀頃、日本本土・中国さらに東アジア諸国との交易を通じて独特な伝統文化を形成してきました。琉球王国時代から沖縄の工芸は、諸外国の文化の影響を受け、県内各地で受け継がれ、発展してきたのです。

沖縄空手会館



沖縄空手会館は「沖縄空手」を独自の文化遺産として保存・継承・発展させ、「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信し、伝統空手の真髄を学ぶ拠点となる施設です。



02

観光関連ルート

08:30



ロワジールホテル那覇

※県庁前広場08:15発→ロワジールホテル那覇08:30発→①首里城(復興現場)②プロ野球キャンプ観戦③キャプテンズイン美浜店(昼食)→那覇空港14:30頃到着予定



首里城(復興現場)



首里城復元を間近で感じることでできる新たな見学エリアが完成しました。正殿の復元に必要な多くの木材の保管・加工を行う「木材倉庫・加工場」と実物大の図面を



描く「原寸場」。原寸場前の見学エリアでは復元を支える職人たちの伝統の技を見学することができます。またパネル展示と映像で正殿の復元工程をわかりやすく解説しています。見学エリアは内郭壁よりも高く、首里や那覇が一望できるビューポイント。「今」しか見ることのできない風景を堪能できます。

03

沖縄の産業分野

09:00



ロワジールホテル那覇

県庁前広場08:45発→ロワジールホテル那覇09:00発→①OIST(沖縄科学技術大学院大学)②ホテルムーンビーチ(昼食)③MRO(機体整備)等 →那覇空港14:45頃到着予定



OIST(沖縄科学技術大学院大学)



沖縄科学技術大学院大学(OIST)は世界レベルの科学技術の研究を行う大学院大学です。教員・学生・研究員の半数以上が外国人であり、物理、化学、生物学等の先進的な研究が進められています。自由見学やガイド付のキャンパスツアーも開催されています。

お問い合わせ頂くことがあります。)



泡盛酒造所

3



沖縄県内には47の酒造所があり、それぞれが個性溢れる泡盛を造っています。泡盛の製造法に触れながら「銘酒泡盛」の歴史を感じ見ることができます。泡盛の試飲やオリジナル商品を購入することもできます。



首里天楼別邸(昼食)



本格的な琉球料理を味わえる首里天楼別邸。琉球の歴史絵巻に囲まれた沖縄情緒漂う空間で沖縄気分を満喫できます。



那覇空港

13:30



プロ野球キャンプ観戦

毎年2月は日本のプロ野球各チームが一斉に沖縄入りします。普段は見ることのできない憧れの選手や監督の表情を間近で見ることができるのがプロ野球キャンプの魅力。練習中の選手に直接声かけしたりすると手を振ってくれたりなど、気軽に選手に接することができるまたとないチャンスです。



キャプテンズイン美浜店



美味しい鉄板焼きステーキを目の前で繰り広げられるクッキングパフォーマンスと共に、味覚と視覚で楽しめます。



那覇空港

14:30



ホテルムーンビーチ昼食

沖縄県北部にある恩納村のリゾートエリアに美しい自然に囲まれた最高のロケーションと三日月型の天然ビーチを抱くように立地したホテル。オープンキッチンのライブ感とともに、和洋中琉の多彩な料理をbuffestailで楽しめます。



MRO(機体整備)



沖縄県的那覇空港に所在する日本で唯一の航空機整備の専門会社「MRO Japan」の施設を見学することができます。



那覇空港

14:45



沖繩の空をもっと近くに

 **JTA** 日本トランスオーシャン航空



ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER 

JR西日本

大人のイマ旅



島根県 玉造温泉 岡山県 備中松山城 ©岡山観光連盟 福井県 三方五湖

※写真はイメージです

今も行きたい旅がある

大人のイマ旅

詳しいキャンペーン情報は



行き先は、
新しい未来。

時代が大きく変わった今、
本当の豊かさとはなんだろうか。

答えはきっとひとつじゃない。
そう思えたら、
今までの景色が違って見えてきた。

だから、問い続けよう、走りながら。
想像が続く限り、どこまでも行ける。

旅と暮らしを
新しいカタチに。 **JR東日本グループ**
Styling the new





沖縄黒糖

沖縄県黒砂糖協同組合

あそび心、盛りだくさん。



AWAMORI

OKINAWA JAPAN

沖縄県酒造組合

<https://okinawa-awamori.or.jp>

＼ 紙もデジタルも ♥ 琉球新報 /



創刊130年。これからも沖縄の今を伝えます。

 **琉球新報社**

代表取締役社長 普久原 均

〒900-8525 沖縄県那覇市泉崎 1-10-3
TEL. 098-865-5111(代表)



沖縄タイムズ社



那覇空港ビルディング株式会社

代表取締役社長 安里 昌利

〒901-0142 沖縄県那覇市字鏡水150番地
<https://www.naha-airport.co.jp>



LOISIR HOTEL
NAHA

〒900-0036 沖縄県那覇市西 3-2-1
www.loisir-naha.com

ロワジュールホテル那覇



おかげさまで25周年
 One Two Smile OTS らんらんツアー
RANRAN TOUR

WEB予約OK 店舗予約OK

往復航空券 + ホテル

WEBで24時間いつでもチェック!
<https://ranrantour.jp>



おかげさまで
 創立65周年

One Two Smile OTS
沖縄ツアーリスト

本社：那覇市松尾1-2-3
 ●旅行部 ●レンタカー部

営業本部(団体営業部) ☎(098)857-2222

持続可能な社会を目指して
 顧客と地域のソリューション企業グループ



日本旅行沖縄
 NIPPON TRAVEL AGENCY OKINAWA

Tourism for tomorrow

地方創生

教育
 ソリューション

各種大会
 イベント

私たちは、
 次世代に向けた新たな価値やサービスの創造に取り組み、
 持続可能な地域づくりに貢献します。

所在地:那覇市久茂地三丁目21番地1号國場ビル2階

北前船寄港地フォーラム in Okinawa

実行委員会委員



会長

沖縄県知事
玉城 デニー



副会長

沖縄県商工会議所連合会
会長
石嶺 伝一郎



副会長

那覇空港ビルディング株式会社
代表取締役社長
安里 昌利



委員

一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー
会長
下地 芳郎



委員

沖縄県商工会連合会
会長
米須 義明



委員

沖縄経済同友会
代表幹事
湊辺 美紀



委員

全日本空輸株式会社
沖縄支店長
井口 治



委員

日本航空株式会社
沖縄支店長
佐々木 政茂



委員

沖縄県立博物館・美術館
館長
田名 真之



委員

一般社団法人 琉球料理保存協会
理事長
安次富 順子



委員

株式会社 沖縄タイムス社
代表取締役社長
武富 和彦



委員

株式会社 琉球新報社
代表取締役社長
普久原 均



委員

内閣府沖縄総合事務局運輸部長
兼 観光庁観光政策調整官
星 明彦



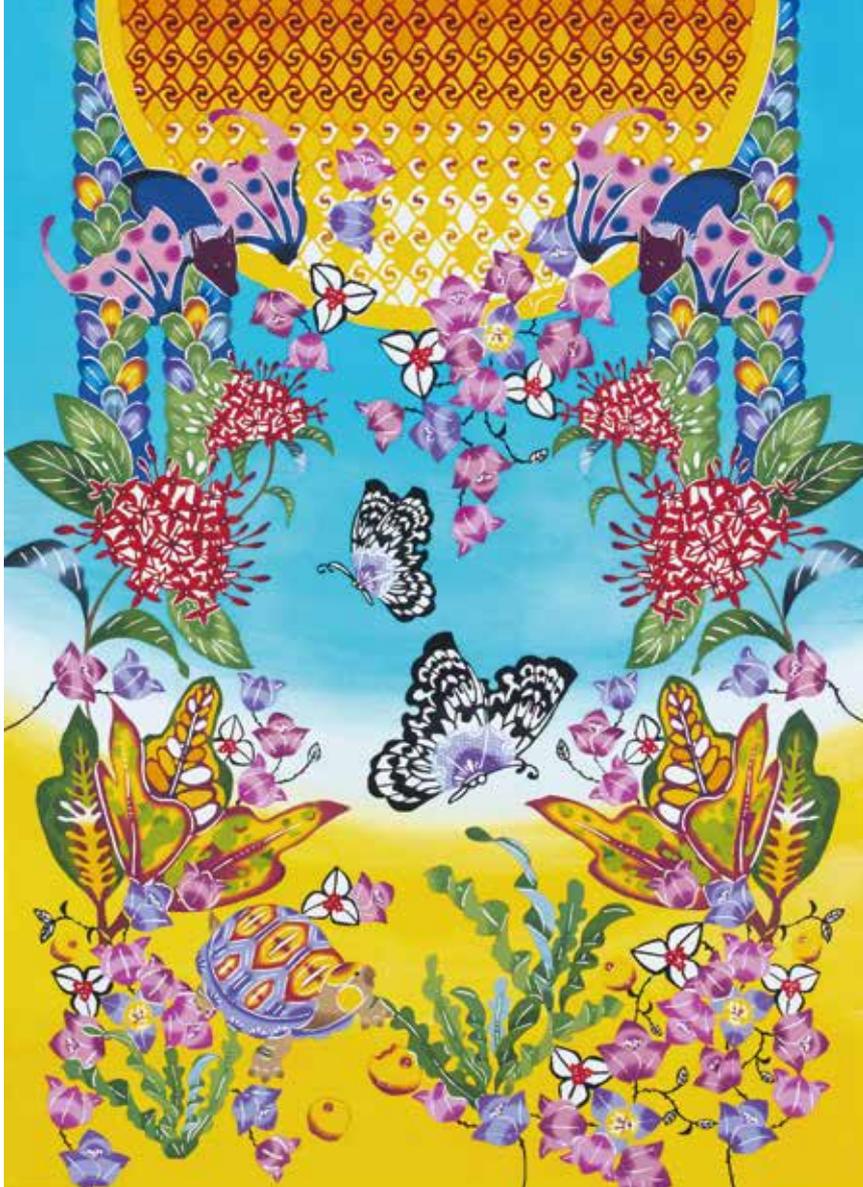
委員

沖縄県
文化観光スポーツ部長
宮城 嗣吉



監事

日本トランスオーシャン航空株式会社
代表取締役社長
野口 望



第31回(2022年)りゅうぎん紅型デザインコンテスト
一般枠 大賞「太陽の庭」 坂本 希和子/作

りゅうぎんは、沖縄の伝統文化を支援しています。



私たちは、持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

第32回

沖縄
Okinawa

北前船寄港地
フォーラム

【主催】北前船寄港地フォーラムin Okinawa 実行委員会

沖縄県、沖縄県商工会議所連合会、那覇空港ビルディング株式会社、
一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄県商工会連合会、沖縄経済同友会、
全日本空輸株式会社、日本航空株式会社、沖縄県立博物館・美術館、
一般社団法人 琉球料理保存協会、株式会社沖縄タイムス社、株式会社琉球新報社、
内閣府沖縄総合事務局、日本トランスオーシャン航空株式会社

【協力】一般社団法人北前船交流拡大機構



※琉球交易港図屏風 六曲一隻/写真提供・所蔵 浦添市美術館 (一部を抜粋)